

&lt;第59回調査&gt;

2014年04月28日

**【本調査の目的】**

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

**【調査実施期間】**

2014年04月15日(火)13:00~2014年04月22日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

**【調査対象】**

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

**【調査方法】**

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。

今回の有効回答数は975件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

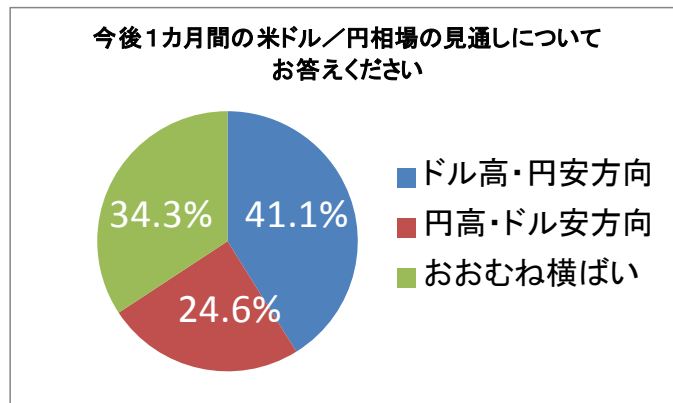
Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 【第59回調査結果略報：ドル/円は強気維持もクロス円の見通し弱め】

### 問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

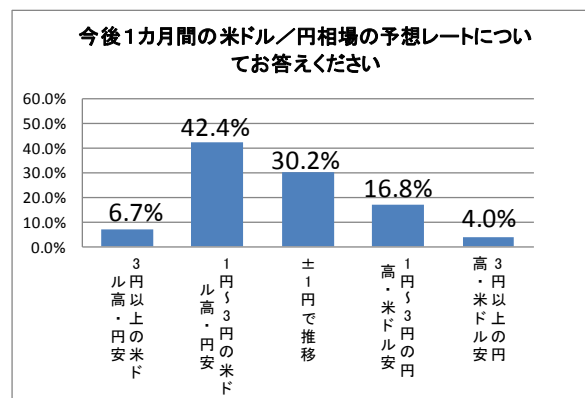
「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が41.1%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は24.6%となった。この結果「米ドル/円予想DI」は+16.5%ポイントとなり、10カ月連続でプラスを維持したものの、プラス幅は4カ月連続で縮小した。調査期間中の米ドル/円相場は101.50円前後から102.70円前後まで上昇する堅調推移となったが、4月4日に付けた104.126円の直近高値には届かなかった。米景気の復調ぶりなどから先高感自体は維持されているものの、足元の戻りの鈍さが(特に、ロングポジション保有者の)強気心理の重石となっているようだ。

※過去の米ドル/円予想DIの推移はP8-9に掲載。



### 問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」と答えた割合が42.4%と最も多く、「±1円で推移」が30.2%と続いた。「1円～3円の円高・ドル安」は16.8%、「3円以上の米ドル高・円安」は6.7%、「3円以上の円高・米ドル安」は4.0%となった。ヒストグラムの形状は米ドル高・円安方向に傾いており、ドル強気・円弱気姿勢が示された問1の結果と整合的と言える。なお「1円～3円の米ドル高・円安」と「±1円で推移」の合計で7割以上の回答を集めた点と、調査期間中の米ドル/円相場の平均(終値ベース)から推測されるFX投資家の今後1カ月の予想レンジは、およそ101.30円～105.30円となる。年初来高値(1/2、105.440円)や年初来安値(2/4、100.754円)の更新を見込む向きはごく少数という事になる。



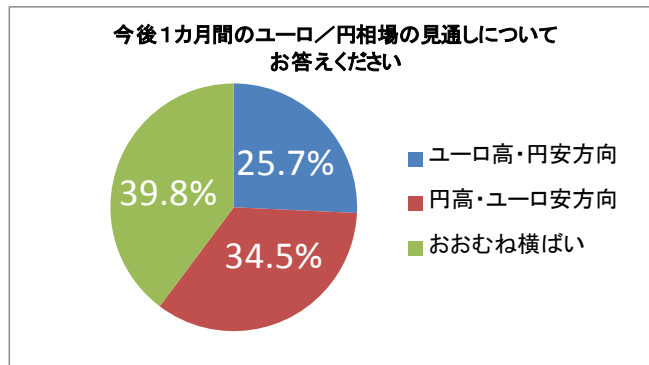
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

### 問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

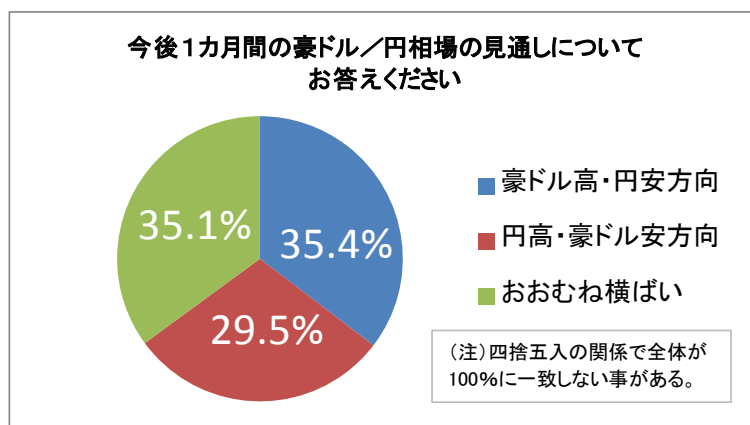
「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が25.7%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が34.5%となった。この結果「ユーロ円予想DIは▲8.8%ポイントとなり、10カ月ぶりのマイナスに転落した(前月:+9.2%ポイント)。調査期間中のユーロ/円相場はウクライナ情勢への懸念がやや緩和する中、140円台前半から141円台後半で小じっかりの推移となったが、欧州中銀(ECB)による追加緩和観測が上値を押さえる場面も目立った。FX投資家の見通しがユーロ弱気に傾いた背景も、ECBの追加緩和観測が高まった事にあるものと推測される。

※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



### 問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が35.4%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は29.5%となった。この結果「豪ドル/円予想DI」は+5.9%ポイントと前回(+3.3%ポイント)に続き、1ケタのプラス幅に留まった。調査期間中の豪ドル/円相場は、概ね95円台で上下する方向感に乏しい展開であった上に、約10カ月ぶりの高値圏にあるため強弱感が対立しやすい水準でもあった。こうした中、FX投資家の豪ドル/円相場の先行きに対する見方が交錯しており、「上昇」「下落」「横ばい」にほぼ3等分される事になった。※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

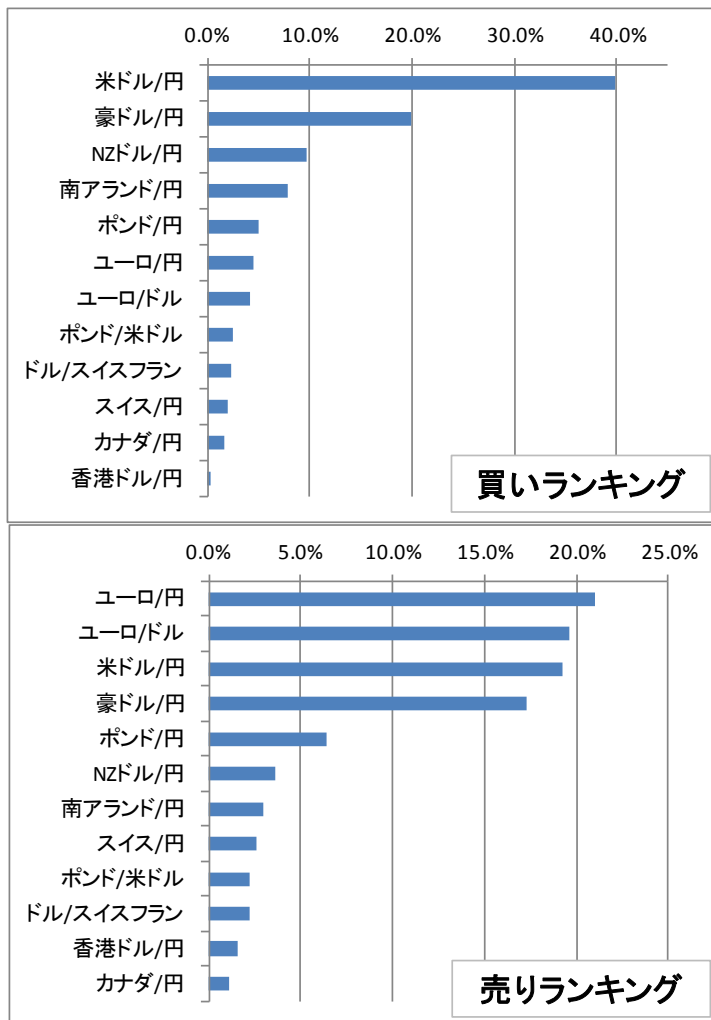


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(39.9%)、2位豪ドル/円(20.0%)、3位NZドル/円(9.7%)、4位南アランド/円(7.8%)、となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位はユーロ/円(21.0%)、2位がユーロ/ドル(19.6%)、3位米ドル/円(19.3%)、4位豪ドル/円(17.3%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円が連続1位の記録を18カ月に伸ばし、2-4位を南半球通貨のクロス円が占めた。ウクライナ情勢への過度な懸念が和らいでいる事などから、リスク選好ムードの復活を見込むFX投資家が少なくないようだ。一方の「売り」で注目の通貨ペアについては、上位4位までの回答割合の差は僅かであった。3位の米ドル/円や4位の豪ドル/円は「買い」で注目の通貨ペアランキングでも上位に入っており、人気通貨ペアであるが故に「売り」でも注目されたと見られ、いわば消極的な売り意欲と考えられる。ところが、1位のユーロ/円や2位のユーロ/ドルに関しては「売り」で注目する向きが「買い」で注目する向きよりも圧倒的に多い。一部のFX投資家は積極的にユーロ「売り」のチャンスを狙っているようにも感じられる。

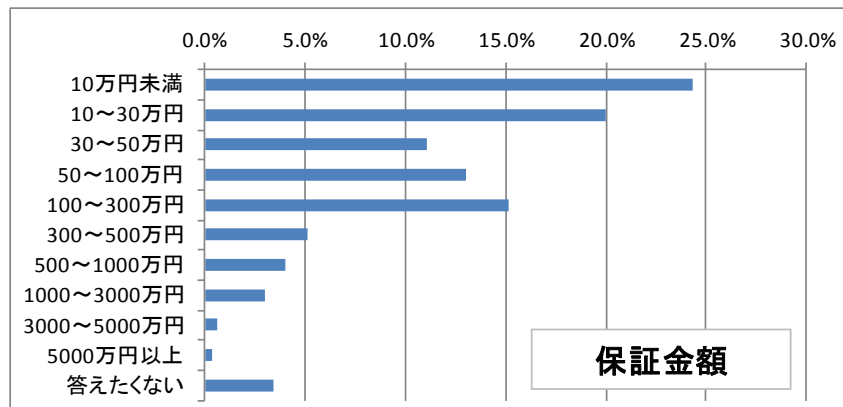


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

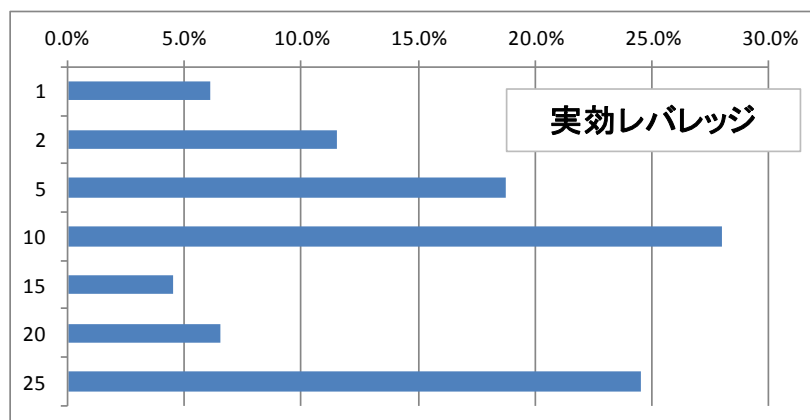
### 問6: FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が24.3%と最も多く、以下「10～30万円(20.0%)」、「100～300万円(15.2%)」、「50～100万円(13.0%)」、「30～50万円(11.1%)」と続いた。「10万円未満」の割合が前回の27.2%から低下した一方、「100～300万円」の割合が前回の11.7%から増加して3番手に浮上している(前回:5番手)点が特徴的だ。「300万円以上」の合算割合もわずかとはいえ増加(12.4%から13.0%へ)しており、保証金の増加傾向が感じられなくもない。もちろん今回の調査結果だけの「歪み」の可能性を排除できないため次回調査の結果を待ちたいところだ。



### 問7: 現在の[実効レバレッジ]で最も近いものを選択ください(ひとつだけ)

「現在の[実効レバレッジ]」について尋ねたところ、「10倍」と答えた割合が28.0%と最も多く、「25倍」が24.5%、「5倍」が18.8%と続き、以下、「2倍」が11.5%、「20倍」が6.6%となった。今回も「10倍」と「25倍」が双璧をなしており、3番手の「5倍」を含めると回答割合は7割以上に上る。FX取引の魅力のひとつであるレバレッジを最大限に活用する層と、ややレバレッジを抑えて取引を行う層に大別できるようだ。なお、今回の調査に回答を寄せたFX投資家の実効レバレッジの平均は12.2倍であった。

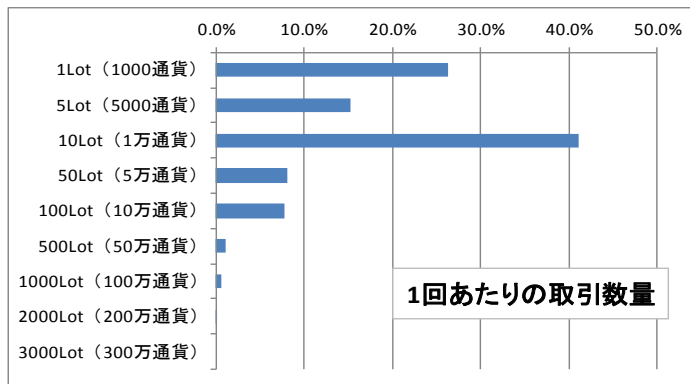


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

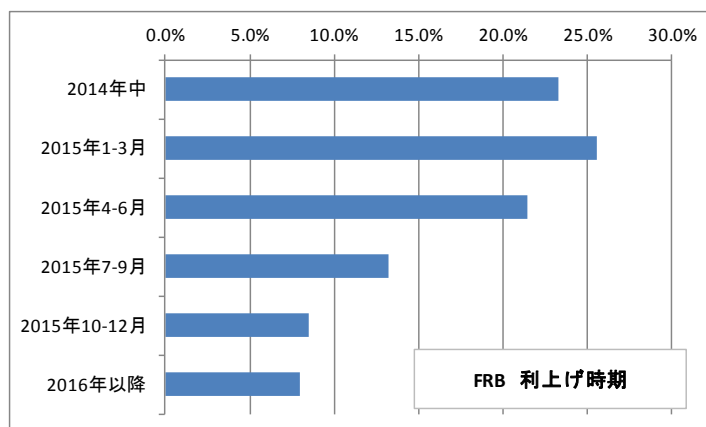
### 問8: 一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)

「一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「10Lot (1万通貨)」と答えた割合が41.1%と最も多く、以下「1Lot(1000通貨)」が26.4%、「5Lot (5000通貨)」が15.2%、「50Lot (5万通貨)」が8.0%、「100Lot (10万通貨)」が7.7%と続いた。この質問を始めて半年になるが、回答割合に顕著な変化は見られない。この半年間のドル/円相場は、97円台から105円台へ上昇した後、一時101円を割り込むなど小さくない変動を見せたが、FX投資家の注文数量は相場動向には左右されにくいようだ。



### 問9: 米連邦準備制度理事会 (FRB) による、政策金利の引き上げの時期は？(ひとつだけ)

今月の特別質問項目として「米連邦準備制度理事会 (FRB) による、政策金利の引き上げの時期は？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「2015年1-3月」と答えた割合が25.5%と最も多く、僅差で「2014年中 (23.3%)」、「2015年4-6月 (21.4%)」と続いた。利上げが2015年後半以降になるとした合算割合は29.7%に留まった。なお、米FF (フェデラルファンド) レート先物市場が織り込んでいる利上げ時期は2015年7-9月 (4月22日時点) であり、FX投資家の多くが、現地の短期金融市場よりも早めの利上げを見込んでいる事がわかる。3月の米FOMC後の会見で、イエレンFRB議長が量的緩和の終了後も「相当な期間」低金利政策を続けるとの方針について、「相当な期間」とはどれくらいか？との質問に対し、「恐らく6カ月程度ではないか」と答えた事が話題となったが、米短期金融市場がこの発言を懐疑的に見ている一方で、本邦FX投資家は信用しているという点は興味深い。



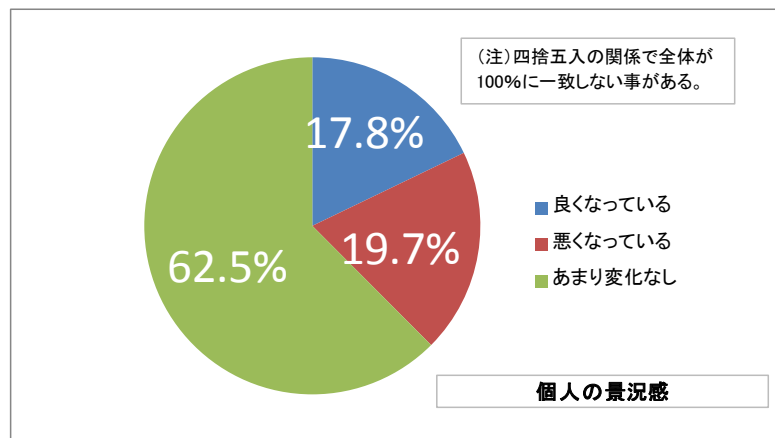
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com



## 問10: あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)

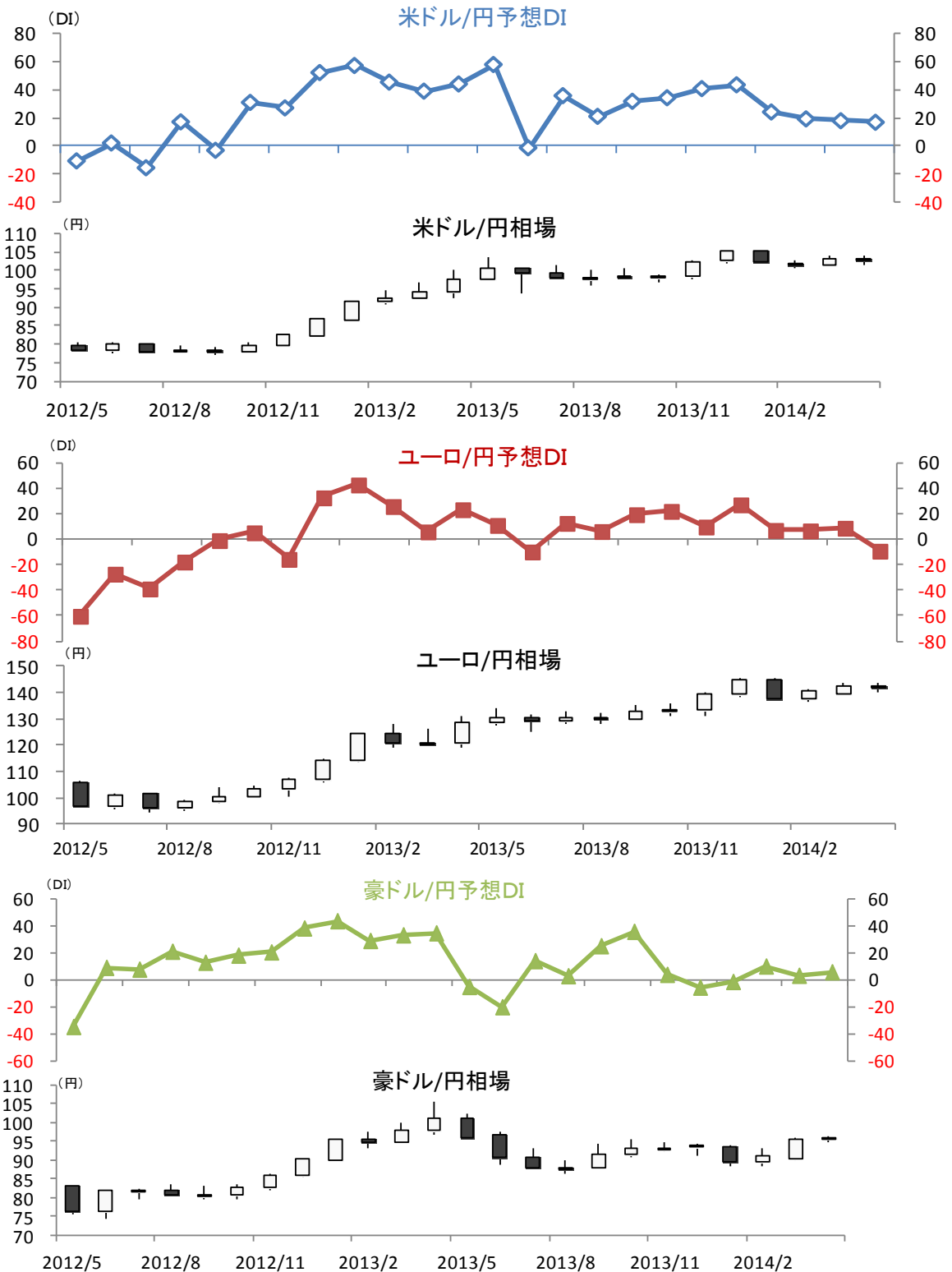
今月のもうひとつの特別質問項目として「あなた個人の『景況感』はいかがですか？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「良くなっている」が17.8%だったのに対し「悪くなっている」が19.7%であり、「あまり変化なし」が62.5%と最大の回答を集めた。なお、今年1月に行った第56回調査で同じ質問をした際の回答割合は「良くなっている(29.3%)」、「悪くなっている(13.4%)」、「あまり変化なし(57.3%)」であった。前回まで5回連続で「良くなっている」の割合が「悪くなっている」を上回っていたが今回の調査で途切れた事になり、FX投資家の景況感はこの3カ月間でやや悪化したと言わざるを得ないだろう。今年1月時点の米ドル/円は103-104円台を中心に推移していたが、足元では101-102円台にシフトしており、16000円台目前だった日経平均株価も14000円台へ下落している。こうした円高・株安の流れが景況感の悪化につながったと見られる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com



## 【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第59回目となりました。調査開始からほぼ5年が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めていきたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

## 【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2012年	5月	25.9	36.5	-10.6	11.7	71.5	-59.8	21.2	56.0	-34.8
	6月	30.9	28.8	2.1	27.3	54.1	-26.8	41.0	31.8	9.2
	7月	18.4	33.9	-15.5	19.7	58.1	-38.4	36.6	28.7	7.9
	8月	36.1	19.0	17.1	27.4	44.7	-17.3	43.0	21.8	21.2
	9月	27.9	31.0	-3.1	38.7	39.2	-0.5	40.2	27.2	13.0
	10月	44.9	14.0	30.9	39.1	33.5	5.6	42.4	24.1	18.3
	11月	48.5	21.5	27.0	27.9	43.1	-15.2	44.0	23.3	20.7
	12月	69.2	17.1	52.1	56.2	23.2	33.0	56.2	17.7	38.5
2013年	1月	70.7	13.6	57.1	61.4	18.3	43.1	60.3	16.4	43.9
	2月	60.0	14.7	45.3	50.1	23.9	26.2	48.6	19.4	29.2
	3月	55.5	16.6	38.9	37.2	30.9	6.3	53.0	19.6	33.4
	4月	61.4	17.4	44.0	49.5	25.8	23.7	56.1	21.2	34.9
	5月	70.5	12.7	57.8	37.3	25.9	11.4	27.7	32.7	-5.0
	6月	37.5	38.8	-1.3	31.4	40.8	-9.4	28.2	48.3	-20.1
	7月	52.3	16.6	35.7	37.3	24.3	13.0	38.4	24.2	14.2
	8月	43.7	22.7	21.0	34.1	27.5	6.6	34.8	31.8	3.0
	9月	49.8	18.1	31.7	40.8	21.0	19.8	46.5	21.2	25.3
	10月	54.8	20.6	34.2	40.8	18.4	22.4	53.1	17.1	36.0
	11月	53.2	12.5	40.7	34.8	24.7	10.1	31.8	27.8	4.0
	12月	59.5	16.1	43.4	48.2	20.7	27.5	27.3	32.8	-5.5
2014年	1月	47.2	23.1	24.1	37.2	29.7	7.5	28.1	29.4	-1.3
	2月	41.7	22.5	19.2	35.3	28.2	7.1	36.5	26.3	10.2
	3月	41.9	24.0	17.9	38.7	29.5	9.2	34.8	31.5	3.3
	4月	41.1	24.6	16.5	25.7	34.5	-8.8	35.4	29.5	5.9

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様が生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com